



現場からのホットニュース

建設産業を支える採石業

株式会社 タカサワマテリアル

1 はじめに

弊社は1882年（明治15年）に創業し、建設資材の販売・製造・生コンの製造・販売など幅広い事業を展開する総合会社として、おかげさまで創業140年余りを迎えることができました。蓼科採石場につきましても、創業50年になり、地域の皆さんにご理解・ご協力をいただきながら、事業の推進を図っていますが、日頃、弊社が実践している碎石作業の安全・安心の取り組みなどについてご報告させていただきます。



2 会社概要

蓼科採石場は長野県佐久市協和地区に構え、北佐久郡立科町と佐久市を結ぶ県道152号（雨境望月線）沿いに位置します。事業区域は403,201㎡、表土下部にはスコリア（岩砕）も分布していますが、下部には良質な安山岩があります。現在、路盤材、生コン用骨材など年間20トン余りを採取し、従業員はダンプ運転手を含め18人で操業しています。



3 施設の概要

採掘は火薬及び油圧ショベルの階段採掘法で、階段幅2.0m、階段高10.0m、掘削勾配は60°以下としています。採取した原石は、重ダンプ・ダンプトラックでプラント施設まで運搬・投入しています。破碎選別は機械選別で、ジョークラッシャーにより150mmアンダーに破碎し、コーンクラッシャーで2次破碎、インペラブレーカーで粒形を整えています。粉塵については、発塵箇所に集塵機を設置し、ダストを捕収するとともに散水設備を備え処理しています。また、製品は飛散防止のため、鋼板製サイロに貯蔵しています。主に路盤材・生コン用骨材として、ダンプトラックにより佐久地域等へ出荷しています。



4 災害防止対策

採石場は人家から1,000m以上離れていることから、騒音についてはほぼ影響はありませんが、爆薬使用の際は早朝・夜間は避けるとともに、破碎機についても建家で覆うなどの配慮をしています。弊採石場の区域内には県道152号と一級河川八丁地川があり、特に県道152号は交通量も多いので、関係官公庁との安全パトロールを定期的に行い、原石の運搬等の際には交通誘導員を置き、安全を確保しています。また、岩石採取の際、河川への汚濁水や土砂の流入を防ぐため、沈砂池・調整池を設けて対処しています。製品の運搬は、県道152号を利用していますが、運転従事者の安全教育を定期的を実施し、輸送の安全を図るとともにスピードの自主規制を行い、地元車優先を徹底しています。

5 建設産業を支える採石業を目指して

当地域は上信越自動車道など基幹高速交通網の拠点都市として、飛躍的な発展が期待される地域であります。一方、江戸時代における江戸と京都を結ぶ重要な街道「中山道」沿いの古くからのたたずまいを見せる宿場などがあり、当時の様子を伝える歴史と風土に恵まれた風光明媚な地域でもあります。このため、環境対策は最重要課題と考え、暫定法面の碎石跡地の緑化については、景観保持のための法面緑化を図っていますが、近年、急速にシカ類などによる食害が発生しており防止対策が大きな課題となっています。弊社は主に佐久地域内に路盤材・生コン用骨材として出荷していますが、多発する災害復旧や日本海（直江津）と太平洋（清水港）を結ぶ「中部横断自動車道」の整備が進められる中、骨材需要の高まりが予想されますので、地元の骨材産業を担う一員として地域の皆さんにご理解いただきながら、事業の継続を図ってまいりたいと考えています。



法面緑化



シカ類などによる食害

長野さいせい会総会及び現地視察研修等を飯田市で開催

日時：令和5年7月13日（木）～14日（金）

1日目（13日）：総会及び室内研修会を飯田市シルクホテルにおいて23名の出席により開催。

2日目（14日）：現地視察研修を飯田市内の「三遠南信道矢筈工事用道路の建設現場」において、15名の出席により実施。

初日の総会は、牛澤副会長の司会進行、下条副会長の開閉会のことば、塚原会長の挨拶及び議長として議事進行、望月前指導員による事務局説明で行われました。

議事として、令和4年度事業概況報告と令和5年度事業計画が承認され、役員の変更は、各支部会員の互選により選出・推薦された候補者4名が承認され、承認された新役員の互選により新役員が次のとおり決定されました。

会 長	塚原 基成（塚原石産興業(株)）	………	南信支部
副会長	下條 隆志（(株)タカサワマテリアル）	…	東信支部
	勝野 祐次（勝野建材(株)）	………	中信支部
	牛澤 誠治（(資)牛澤商会）	………	北信支部

新役員の挨拶を頂いた後、事務局から報告事項があり、今年度予定して諸般の事情で延期された『諏訪市で行う、北海道の「未来研究会」との意見交換』を次年度に実施することとするため、原則支部持ち回り開催の次期開催地については、今年度と同じ南信支部で行うこととなった。併せて、事務局の望月指導員が退任し、新任として阿部指導員が着任した旨の報告がなされ、最後に、来賓の塚原理事長から祝辞をいただき終了しました。



総会



新役員あいさつ

総会后、室内研修会として、飯田市美術博物館の専門研究員青木隆幸氏を講師に「『田切』が作る世界」と題して約1時間のご講演をいただきました。

講師からは冒頭、演題に示した第一部の内容は時間の都合で割愛し、第二部「^{ひつじ}末の満水」の話を進めるとの断りがありました。近世信濃の^{いぬ}二大災害として、千曲川流域で起こった「^{いぬ}戌の満水（1742年）」と、天竜川流域で起こった「末の満水（1715年）」があり、前者は、元県職員で災害の歴史研究家の山浦直人氏（長

野さいせい会でも令和2年度の研修会で「長野県の水害の歴史から学ぶ」と題した室内研修を行って頂いている。)が詳しく、平成25年には県立歴史館において「山国の水害」と題した展示をされているとの話がありました。

正徳5年(1715)末年6月に飯田市を流れる天竜川水系を襲った「未満水」は、昭和36年6月の三六水害と並び、天竜川の二大洪水として語り継がれ、ともに梅雨前線による集中豪雨が原因とされている。今回はこの災害を、各所に残されている古い史料を基に読み解いてみたい、とのことで、天候に関する古い史料の記述を現在の天気図にあてはめ、三六水害時の天気図と重ね合わせてみて、災害史研究の原則「一度あったことは必ず二度ある」や、もう一つの原則「これは、一次史料なのか、二次史料なのか」により、「災害は「作られる」」などの名言を披露頂いた。

講演の最後には、市内にある「りんご並木」の由来に触れ、飯田市の大火(昭和22年)後の街の復旧にあたって地元の中学生が植栽に関わった等の話で締めくくられた。

青木氏には業務多忙の中、ご講演いただき、この誌上をお借りして御礼申し上げます。



室内研修会



講師の青木隆幸氏

総会・室内研修会後は懇親会を行い様々な情報交換が行われました。

2日目の午前、出席者15名により「三遠南信道矢筈工事用道路の建設現場」の現地視察研修を実施しました。本橋(長さ300m、高さ(最高)70m)を作るために必要な巨大な仮設橋(工事用道路)のみを作る工事で、その規模の大きさに驚きとともに説明を聞きました。

現場施工業者の(株)早野組(山梨県)細田監理技術者には、連絡調整から当日の説明まで大変お世話になりました。また、現場でご説明頂いた関係者の皆様にもお礼申し上げます。



施工業者の説明



施工中現場



掲示説明資料等

採石業務管理者会総会・研修会の開催

日時：令和5年9月14日(木) 10:00～14:30

場所：安曇野市「ビレッジ安曇野」

昨年度に引き続き、昨年度と同時期・同場所での開催となりました。出席者数は56名となりました。

業務ご多忙の中、ご講演いただきました長野野働局労働基準部健康安全課の鬼頭宏明様、長野県林務部鳥獣対策室の植木信吉様にはこの誌上をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

◆総会

北條（午前）、花岡（午後）両副会長の司会進行、赤堀副会長の開閉会のことば、木下会長の挨拶及び議長として議事進行、阿部指導員による事務局説明で行われました。

議事として、令和4年度事業経過報告と令和5年度事業計画が承認され、役員の改選は、各支部会員の互選により選出・推薦された候補者4名が承認され、承認された新役員の互選により新役員が次のとおり決定しました。今後2年間、よろしくお願いたします。

会 長	：木下 和章（有）タナダ工業）……	南信支部
副会長	：花岡 智則（信濃石産興業株）…	東信支部
	赤堀 正幸（赤堀建材有）………	中信支部
	北條 美憲（株）信越建商）………	北信支部

その他として、事務局から令和4年度の採石場自主パトロールの結果等についての報告事項があり、最後に、来賓の塚原理事長から、本誌冒頭に掲載した挨拶の主旨に沿った内容による来賓祝辞をいただき終了しました。



総会



役員席・事務局



木下会長あいさつ（後方は本会理事長ら来賓）



来賓（理事長）あいさつ

◆研修会

演題：「採石業の労働災害について」

講師：長野労働局労働基準部健康安全課 労働基準監督官 鬼頭宏明氏

概要：

まず、全国と長野県の災害発生状況が説明されました。労働災害（休業4日以上）の数では、この20年、全国、長野県いずれも横ばい。死亡者数では、全国では減少傾向だが、長野県ではこの15年横ばいという状況とのこと。採石業に係る事故の型別では、「はさまれ巻き込まれ」、「墜落・転落」が多く、起因物別では、「コンベア」、「石、砂、砂利」が多い等でした。

次に、労働災害防止対策として、労働災害発生のメカニズム、リスクアセスメント、労働安全衛生法などの基本に立ち返った説明があり、安全への意識を再確認することとなりました。

事故の型別で多かった二つの災害防止については、「はさまれ巻き込まれ災害防止」では、長野労働局が作成したユーチューブ動画（約10分）の視聴、「墜落・転落の危険防止」では、起因物への対応、高齢者への対応、季節性への対応等が留意点として説明されました。最後に、「第14次労働災害防止計画」と「みなし労働時間制」の話で締めくくられました。



パワポにより説明中の鬼頭講師

演題：「採石跡地の植生の再生と野生鳥獣による被害防止対策について」

講師：長野県林務部鳥獣対策室 課長補佐 植木信吉氏

概要：

前段は、「採石跡地の植生の再生」として、①緑化工の区分、②風化岩石の場合の緑化工の具体例、③砕石用原石、石材用原石の場合の緑化工の具体例について、他県のインターネットからの資料を使った説明がありました。後段では、「野生動物による被害防止対策（野生動物による林業被害と対策）」として、ニホンジカ、カモシカ、ツキノワグマ、サル、ノウサギ、ノネズミ等の被害写真や動画を使った分かり易い説明がありました。最後に、ジビエ振興と野生イノシシの豚熱（CSF）などのお話で締めくくられました。



パワポにより説明中の植木講師

研修会終了後は、勝野副理事長から、本日の研修受講の証として、受講証書を4支部の代表の方（佐藤啓行（東信支部）、久保田浩宣（南信支部）、田尻悦雄（中信支部）、吉池和男（北信支部））に交付され、他の受講者全員には各支部事務局から手渡されました。

